

【突発騒音抑制】

家の中とか会議室とか比較的静かな環境にいるときに、食器を落としたり、ガラスの皿を割ったりして（ガチャン）という音や、ドアを強く締めて（バタン）という音等、突然の大きな音でびっくりされた経験は誰にもあると思います。このような突然の大きな音を聞くと補聴器を使用されている方は、もっと大きな音に聞こえますので、耳に相当の負担がかかります。このような事態を軽減させようと開発されたのが【突発騒音抑制】です。

この機能は比較的静かな環境下で効力を発揮します。騒がしいところでは周りの騒音がもともと大きいので、突発騒音が発生してもそれほど驚くような事態にはなりません。さらに、通常の騒音抑制が作動していることで、突発騒音も自動的に抑える効果もあります。比較的静かなところで、この突発騒音抑制がどの様に機能しているのか簡単に説明します。

最初のステップとしてこの機能を作動させると、現在の平均騒音レベルを常に測定する状態になります。そこで、突発騒音が発生したとしましょう。

次のステップでは、この機能が瞬時にその突発騒音と現在の平均騒音レベルの「差」を計算します。

最後のステップは、この「差」の数値が予め設定されている数値（例えば10 dB）より大きければ、突発騒音を抑制します。「差」の数値がそれより低ければ抑制はしません。

突発騒音はあるとき突然発生しますが、それほど長時間残存する音でもないので、発生した時に必要な「差」の計算と的確な抑制のスピードが求められます。スピードが遅いと、突発騒音を抑えることが出来ないことや、突発騒音だけでなく言葉も抑制してしまう現象が発生します。

最近デジタルチップの性能向上で、この機能に関して、補聴器メーカー間の格差はほとんどなくなっているようですが、興味があれば、補聴器販売店で2～3機種の聞き比べをされては如何でしょうか。